

町政を問う

今回の定例議会でも一般質問を行いました。主要な質問は

- 一、道路行政
- 二、(仮)三芳町近世開拓史資料館跡地利用

の2項目について質問しました。紙面の都合上主要な質問の要点のみをダイジェストでご報告します。

■厳しい財政での道路整備の優先順位は？

来年、道路整備方針を含め都市計画が見直されます。現在の道路計画は高度経済成長期の人口増加や交通量の増大を前提に計画されたものであり、各自治体とも財政状況の逼迫から計画の修正が求められています。

《質問》 町道幹線2号線(下組交差点から所沢境)を含む上富の通りは、国道254に次いで人身、物件事故が多い。2号線も主要生活道路から都市幹線道路に格上げし歩道整備をすべきでは。

《答 道路下水道課長》 都市

■都市計画道路の見直し結果は？

《質問》 当町には都市計画道路が7路線ある。必要な路線もあるが、長期未整備路線は見直すことになっているが結果は。

《答 都市計画課長》 見直し路線はなかつたが、今後、富士見市、ふじみ野市と相談しながら見直しをしていきたい。

《質問》 竹間沢・大井・勝瀬通線については、マミーマート、ベルク周辺、鶴瀬駅から川越街道に抜ける路線等の整備の推進は、人口集中地域でもあるので理解できるが、北側のふじみ野市東台地域は目処が立っていないとのこと、また南側は浦和所沢バイパスまで抜ける計画だが今後の予定は。

《答 都市計画課長》 都市計画決定はされているが事業決定をした路線ではない。当面、南部分は市街化区域のスミミングのある交差点までが目標。マスタープランの見直しの中で検討していきたい。

《質問》 少子高齢化、社会環境の変化等で公共交通システムも含め交通需要も変わってくる。様々な観点から都市交通の現況の実態

計画の見直しの中で精査し、事故のなくなるよう整備をしたい。

《質問》 北永井を南北に抜ける町道幹線4号線は、人身、物件事故も多く、道路幅員も他路線より1m狭く、3月に車の正面衝突による死亡事故も発生。主要生活道路から地域幹線道路に格上げし、住民要望の多い歩道整備は最優先課題では。

《答 道路下水道課長》 交通量も多く他路線の進捗状況を見ながら一日も早く整備をしたい。

《質問》 役場入口から殖産住宅、北永井三区に抜ける町道幹線5号線は、大型店舗が近くにできたことにより事故も多い。地域幹線道路から大型車の規制等を行う主要生活道路にすべきでは。

《答 道路下水道課長》 今後の検討課題としたい。

《質問》 上富のケヤキ並木を活かした自転車歩行者道整備事業は、歩道整備が進む中で樹木が伐採されている。緑の景観保全のために協議会の設置を。また、歩道整備を片側だけでも優先すべきでは。

《答 道路下水道課長》 所有者

を把握・分析する総合都市交通体系調査を実施し、複雑で多様な都市交通問題を解決するために、都市交通マスタープランを策定する必要があるのでは。

《答 都市計画課長》 都市計画マスタープランの見直しの中で検討していきたい。

■(仮)近世開拓史資料館跡地利用は？

《質問》 2年前の埼玉県議会において県教育長から厳しい財政的理由で建設はできなかつた。建設予定地については、今後、三富開拓地割り遺跡のガイダンス機能やビジターセンター的な機能など、幅広い活用方法について関係部局や三芳町と検討していきたいとの答弁であったが、その後の進捗状況、町の建設予定地活用素案は。

《答 生涯学習課長》 今年2月に県担当課長と面談し、土地の無償貸与はまだ結論がでない、今後有効利用について町と協議していきたいとのこと。活用素案は、三富の文化財インフォメーション機能、訪問者やボランティアの活動支援ができる機能をもった施設を考えている。

★町内の道路の4分類★

- 1.《広域幹線道路》 国道254や浦和所沢バイパスなど広域都市間交流を行う路線。
- 2.《都市幹線道路》 近隣市町との連携を図る路線。歩道整備、並木道づくりが求められる。
- 3.《地域幹線道路》 広域幹線道路や都市幹線道路へのアクセス道路。安全、住環境との調和を図る。
- 4.《主要生活道路》 住宅密集地を通り、日常生活における町内移動に利用。大型車の交通抑制など歩行者の安全を優先。



狭隘でしかも交通量の多い北永井の通り
今年の3月には死亡事故も発生

の皆さんのご理解をいただき検討していきたい。また、危険な個所から歩道整備を進めたい。

◆解説

道路行政に関する町の基本的な計画は、平成13年に策定された三芳町都市計画マスタープランに示されています。

しかし、これらの道路計画は、高度経済成長期に決定され、人口増加や交通量の増大等を前提に計画されており、埼玉県では、「長期未整備都市計画道路の見直しガイドライン」を策定し、各自治体とも都市計画道路の必要性を再検証し、路線の廃止等を進めています。

現在、町の道路整備の課題として、都市計画道路の整備、町道の新設補修、スマートICフル化に伴う周辺道路の整備等があり、多額な財政投入が必要であり、今後新設と共に多額な維持管理費もかかってきます。

富士見市、ふじみ野市、三芳町は富士見都市計画区域に入っていますが、整合性がとれてなく、また将来の整備の可能性が低い路線もあります。各自治体とも財政状況の逼迫などから、思い切った見直しと今までの説明責任が求められます。

◎主な平成21年度補正予算内容

総額 4億512万円

- ①竹間沢第2学童保育室設置工事
 - ・ 3389万7千円
 - ・ 対象児童増加に伴い増築
- ②庁舎省エネ照明器具取付工事
 - ・ 697万2千円
 - ・ 省エネ効果高い蛍光灯導入
- ③藤久保第4区集会所トイレ改修工事
 - ・ 90万2千円
 - ・ 間仕切りで男女別に
- ④学校ICT環境整備用備品
 - ・ 1億8108万6千円
 - ・ 国からの交付金、補助金に基づき、デジタルTV50型142台、25型13台、電子黒板8台等
- ⑤バス交通改善対策事業補助金
 - ・ 227万2千円
 - ・ ライフバス北永井通り一部路線変更(桜荘、かしの木ケアセンターも経由するように)
- ⑥道路修繕工事費
 - ・ 4000万円
 - ・ 4, 5, 14, 21, 22号線道路路面工事

◆解説

2年前の県教育長答弁によって新たなステージに入ったはずであったが、何ら進捗していない。イニシアティブは県ではなく町に移されたと言っているが、現状を見ると町に明確なビジョンがないか、施策の中の優先順位が低いのであるうか。



さいたま緑の森博物館(入間市)
2年前に県担当者がガイダンス機能を持ったモデル施設として紹介

◎厚生文教常任委員会

今後の所管事務調査

- ・ 10月21日～22日
 - ・ 群馬県高崎市(学校給食の自校式について) 栃木県茂木町(生ごみの堆肥化について)
- ・ 11月11日
 - ・ 三芳町、川越市の福祉施設(障害者就労支援について)